

今、熊本かがやきの森支援学校では・・・(本校舎の給食について その12)

令和5年度が始まって、3ヶ月が過ぎようとしています。学校教育では、様々な行事や日々の教育活動を充実させていくことは当たり前のことですが、本校舎では全ての児童生徒への給食指導も学校生活において大きなウエイトを占めています。

本校舎の給食は、熊本市立城西中学校の共同調理場から提供いただいています。届いた給食は、個々の子どもの摂食能力に応じて、普通食からペースト食までの6段階に二次調理をしてから提供しています。二次調理は、外部委託している事業所から5人のスタッフが派遣されており、日々細心の注意を払いながら、二次調理に当たっていただいています。

また、「食べることは生きること」そのものであるとともに、食べることが人と人とのコミュニケーションを円滑にする大きな役割を果たしていると捉えているので、教員と子どもたちとの信頼関係を深めたり、やりとりの手段を構築したり、摂食機能を高めたりと、教育効果の高い活動となっています。

本校舎は環境的にも大変恵まれており、全児童生徒職員が一同に会して給食を食べられるランチルームがあります。その為、緊急時対応が速やかにでき、救急車を要請する場合でも、救急車をランチルームに横付けし、速やかに搬送できるように考えられているなど、安心安全をしっかりと担保した構造になっています。(現在、コロナウイルス感染症の感染防止対策のために、一部の中学部がケアルーム、高等部が教室に分散して給食を食べています。)

毎日の積み重ねで子どもたちの摂食能力は着実に向上していきますが、それとともに教員の食事指導の専門性が求められていくこととなります。教員の指導技術を高めてもらうために、機会を見ながら食事指導の研修会を言語聴覚士の先生方を招聘して開催していく予定です。

「安全で おいしく 楽しい」給食となるよう、これからも頑張りたいと思います。

令和5年6月23日

熊本かがやきの森支援学校長

富永 佐世子

